

ERE information

Vol. 1 2002年5月27日発行

発行/日本経済学教育協会・事務局

発行責任者/松崎 英樹

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 3 番21号 電話(03)3267-4819

創刊のご挨拶

わが国初！経済学知識測定の実験を実施

日本経済学教育協会「EREインフォメーション」第1号をお届けいたします。

ERE (経済学検定試験) は、主として、大学の経済学部その他社会科学系学部の学生を対象に、経済学の知識の習得度とその応用力を全国的規模でレベル判定するものです。

大学生が経済学を学ぶうえで、このEREを具体的な目標とすることにより、将来のビジネス社会において必要とされる経済知識とその応用力を養成できることを目的としています。

もちろん、一般社会人にとっても、経済学の専門知識の習得度をためす場ともなり得るものです。

昨年、日本経済学教育協会を設立いたしましたことにつきましては、すでにご案内のとおりですが、お蔭様で第1回EREを本年3月3日に実施することができました。これも偏に各大学の経済学部等の先生がたの深いご理解の賜物であり、あらためてお礼を申しあげる次第です。

また、EREの実施には経済法令研究会ならびに銀行業務検定協会の全面的な支援があったことも付け加えさせていただきます。

経済法令研究会は、40数余年にわたり、金融機関行職員の業務知識等の向上を目指して、

通信講座の開講や書籍の出版等に携わってまいりました。

また、姉妹団体の銀行業務検定協会は、主として銀行等金融機関の行職員を対象に、業務の遂行に必要な実務知識および技能応用力についてその習得度を測定する銀行業務検定試験を実施しております。ちなみに銀行業務検定試験は、現在、応募者数が年間30万人を超え、試験種目が19系統37種目と、業界最大となっております。

2002年度のEREは10月と3月に実施されます。

このEREが、大学生にとっては判定されたレベルを就職活動の際の自己アピールのツールとして活用できるものとなるように、また、企業におかれましては採用時の判断に際して一つの客観的な目安ともなり得るものとなるよう、さらなる飛躍を求めて良質な試験の実施に努めてまいり所存しております。

何卒ご支援とご協力を賜りたく、この機関誌にて失礼ながら、お願いとご挨拶にかえさせていただきます。

日本経済学教育協会

事務局長 松崎 英樹

去る3月3日(日)、全国一斉に実施いたしました『第1回ERE(経済学検定試験)』の試験結果がまとまりましたので、ご参考までに発表いたします。

本試験には、経済学部をはじめとするさまざまな学部の学生の方々からご受験いただきました。また、ビジネス界からも多種多様な業種の方々にご受験いただいております。今回は第1回目の実施ということもあり、応募者数は1,230名にとどまりましたが、実施前から多くのメディアで取り上げられるなど、各方面から注目をいただいております。

◆第1回「ERE」成績結果

【受験者について】

<input type="checkbox"/> 応募者数	1,230名	<input type="checkbox"/> 女性	162名	16.00%
<input type="checkbox"/> 受験者数	1,012名	<input type="checkbox"/> 受験者平均年齢	23.89歳	
<input type="checkbox"/> 男性	850名	84.00%	<input type="checkbox"/> 最高得点	860点

【各科目平均点】

<input type="checkbox"/> ERE全体(1,000点)	463.7点	<input type="checkbox"/> 金融論(100点)	42.9点
<input type="checkbox"/> ミクロ経済学(250点)	110.7点	<input type="checkbox"/> 国際経済(100点)	39.7点
<input type="checkbox"/> マクロ経済学(250点)	120.0点	<input type="checkbox"/> 統計学(100点)	32.5点
<input type="checkbox"/> 財政学(100点)	56.7点	<input type="checkbox"/> 時事経済(100点)	61.2点

【ランク別人数・構成】

<input type="checkbox"/> Sランク(950点以上)	0名(0%)	<input type="checkbox"/> Cランク(500~690点)	347名(34.29%)
<input type="checkbox"/> Aランク(850~940点)	1名(0.10%)	<input type="checkbox"/> Dランク(500点未満)	633名(62.55%)
<input type="checkbox"/> Bランク(700~840点)	31名(3.60%)		

ERE(経済検定試験)受験案内請求書

FAX 03-3267-4999
検定試験運営センター(ERE係) 行

第2回ERE受験案内 部

◆送付先住所 〒

TEL e-mail

◆氏名

優績者に聞く！

「学習は何ごとも基礎が重要です」

～第1回トップ・川森 智彦さんにインタビュー

今回、ただお一人Aランクを獲得された東京大学の川森智彦さんにEREや経済学の学習など興味深いお話を聞くことができました。

川森さんは、EREご受験当時は東京大学経済学部4年生(22歳)でいらっしゃるいましたが、現在は同大学の大学院に進学されています。すでに国家公務員I種(経済職)に合格されており、将来はそちらの方に進まれるとのこと。今回はゼミの先生に勧められてのご受験でした。以下、お話の一部をインタビュー形式でご紹介させていただきます。

Q1. まず、EREご受験の感想について、お聞かせください。

出題のバランスが良いと思います。2年生までにだいたい学習する範囲だし、標準的な問題なので、授業をきちんと聞いていれば解けると思います。ただ、知っているかどうかを問う問題が少し多かったような…その場で考えるような問題、たとえば、計算問題などがもう少しあっても面白かったと思います。もう1つ付け加えると、私の今回の得点は不本意です。

Q2. EREの受験対策はどうされましたか？

とくにEREのための学習はしてません。学校の授業で十分だし、公務員試験のための学習をしていたので、それが役立ちました。

Q3. なるほど。それでは、EREのための学習が公務員試験に役立つと言ってもいいですか？

そうですね、確かに逆のことも言えますね。

Q4. それでは、経済学の学習のコツを教えてください。

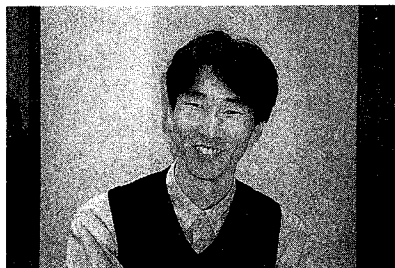
経済学に限らず、学習は基礎が重要だと考えています。経済学については、理論と数学(とくに微分)が基礎だと思います。基礎を理解していれば、応用は意外と易しいものです。

Q5. 理論と数学…それぞれの基礎学習のためのお勧め参考書を教えてください。

やはり、日本経済学教育協会で推奨されている参考書は良いですね。数学は、とりあえず高校の『微分積分』の教科書です。でも、それだけでは足りないので、岩波書店の理工系の数学入門コース『1.微分積分』、『2.行列と1次変換』などが良いと思います。

Q6. 最後に、今後のEREに期待することをお聞かせください。

西村先生がパンフレットに書かれていたとおり、合否がないのは良いことだと思います。EREがもっと高い社会的地位を確立し、経済学教育の発展に貢献されることを願っています。



とても好印象の川森さん、親切にいろいろお話くださり、ありがとうございました。今後のますますのご活躍をお祈りしています。

2002年度E R E（経済学検定試験）実施要項

2002年度(第2回および第3回)のE R E(経済学検定試験)の実施および内容等の概要は、次のとおりです。詳しくは検定試験運営センターにお問合せください(TEL: 03-3267-4821)。なお、詳しい資料のご請求については2ページ下に資料請求書がございますので、コピーしてご利用ください。

■ホームページ【<http://vivid-keizai.khk.co.jp>】

■e-mail【info@vivid-keizai.khk.co.jp】

◆実施要項

実施回	第 2 回	第 3 回
試験日	2002年10月27日(日)	2003年3月2日(日)
試験時間	10:00~12:30(150分)	10:00~12:30(150分)
受験願書 受付期間	2002年7月1日(月)~ 2002年9月10日(火)必着	2002年11月25日(月)~ 2003年1月23日(木)必着
受験料	3,150円(消費税込)	
出題形式・出題数	4答択一式/100問/1問10点、1000点満点	
持込品	受験票、筆記用具(HBの鉛筆、プラスチック製消しゴム)、電卓(ポケコン、関数・メモ機能付は不可)、顔写真付身分証明書(運転免許証・パスポート・学生証等)	
正解発表	弊会ホームページにて10月30日(水) 17:00より掲載予定	弊会ホームページにて3月5日(水) 17:00より掲載予定
成績通知	11月下旬頃、願書記載住所へ送付	4月上旬頃、願書記載住所へ送付

※正解・ランク(得点によりS~Dランクまでの5段階で判定します)について、日本経済学教育協会および検定試験運営センターへの電話でのお問合せはいっさいお断りしておりますので、ご了承ください。

◆出題科目と範囲

ミクロ経済学 (250点)	市場と需要・供給、消費者と需要、企業と生産関数・費用関数、市場の長期供給曲線、完全競争市場、厚生経済学、不完全競争市場、市場の失敗、不確実性と情報、ゲーム理論、異時点間の資源配分
マクロ経済学 (250点)	国民所得、消費と貯蓄の理論、投資理論、経済政策の有効性、貨幣需要と貨幣供給、インフレーション、失業の理論、経済成長理論
財政学 (100点)	予算制度、財政政策の効果、財政運営、公債、課税の効率性、課税の公平性、公共財、社会保障、地方財政、公共選択
金融論 (100点)	日本の資金循環の特徴、間接金融・直接金融、市場型間接金融、証券市場、金融機関の役割、金融技術、金融政策、為替の決定理論、郵貯・財政投融资、金融ミクロ理論、金融マクロ理論
国際経済 (100点)	比較優位の理論、直接投資、貿易政策、外国為替市場、国際収支、国際資本移動、累積債務問題
統計学 (100点)	確率、平均・分散、正規分布、t-分布・ χ^2 検定・f検定、仮説検定、相関係数、最小2乗法、内生変数、外生変数・先決変数、因果性テスト、構造形・誘導形、データ解析
時事経済 (100点)	最新の経済問題・記事・ニュース